

【仕様書】受託業務等事務補助業務

1. 目的

製品評価技術基盤機構（以下「当機構」という。）バイオテクノロジーセンター（以下「NBRC」という。）では、生物遺伝資源に関連した受託事業を実施している。

これらの業務を実施するにあたり、物品等の調達やそれに伴う会計処理、予算執行管理、資産・物品等の管理、多種多様な試薬（毒劇物、危険物を含む）等の提出資料の準備、会議や打合せの運営等が必要となることから、業務の円滑な推進を図ることを目的として、上記業務の一部を担う労働者派遣契約を行うものである。

2. 業務内容

業務内容は、以下に掲げる作業項目の中から、NBRC バイオものづくり基盤支援課担当職員（以下「担当職員」という。）から依頼する作業となる。作業の優先順位やスケジュールは、担当職員と協議し作業を進めるものとする。

- (1) 試薬、物品等の注文、納品、検収、支払い等の作業
- (2) 予算執行の管理
- (3) 資産、物品等の管理
- (4) 旅費支払い事務
- (5) 会議、打合せ等の準備
- (6) 受託事業等の経理関係報告書等の作成
- (7) その他、上記に付随する業務

※上記業務には個人情報の取扱を含みます。

3. 資格条件

(1) 資格

マイクロソフト オフィスペンシャリストのエキスパートを取得していることが望ましい。

(2) 知識

- ① 資料作成のために Microsoft Word、Excel 及び PowerPoint を使用できること。
- ② 物品等の注文、納品、検収、支払い等に関する知識を有すること。
- ③ 発注、カタログ確認等のため、電子メール等で英語にて一般的な問い合わせに対応できる知識を有することが望ましい。
- ④ 消費税に関する課税、免税、非課税又は不課税の区分等税法上の知識を有することが望ましい。
- ⑤ 試薬、毒劇物等の管理及び取扱いに関する知識を有することが望ましい。
- ⑥ 独立行政法人会計基準及び独立行政法人会計基準注解に関する基礎的な知識を有することが望ましい。

(3) 経験及び技能

経験等の期間については令和7年3月末までの実績見込みとする。

- ① 公的機関、企業等で、会計関係業務の経験が通算1年以上あること。
- ② 公的機関、企業等で、会計関係業務の経験が通算3年以上あることが望ましい。
- ③ 公的機関、企業等で、物品等の調達業務の経験が通算1年以上あること。
- ④ 公的機関、企業等で、物品等の調達業務の経験が通算3年以上あることが望ましい。
- ⑤ 公的機関、企業等で、予算執行管理の経験があることが望ましい。
- ⑥ 公的機関、企業等で、資産管理の経験があることが望ましい。
- ⑦ 受託事業等で経理関係報告書等の作成をした経験が通算1年以上あること。
- ⑧ 受託事業等で経理関係報告書等の作成をした経験が通算3年以上あることが望ましい。
- ⑨ 試薬、毒劇物等の管理業務の経験が1年以上あることが望ましい。
- ⑩ Microsoft Excel のマクロを作成又は編集を行った経験があることが望ましい。
- ⑪ 会議運営業務を行った経験があることが望ましい。
- ⑫ 日本語による作業指示が理解でき、コミュニケーションに支障がないこと。日本語を母国語としない場合には、国内企業において日本語を使用する環境で10年以上勤務した経験があること、又は日本語能力試験における N1 を取得していること、あるいは日本語能力試験における N3 以上を取得し、かつ英語による作業指示が理解でき、コミュニケーションに支障がないこと。

(4) 派遣元の要件

ワーク・ライフ・バランス等の推進に関する指標（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律、次世代育成支援対策推進法、青少年の雇用の促進等に関する法律等）に基づく認定等を受けていることが望ましい。

4. 契約期間、勤務時間等

(1) 契約期間

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(2) 就業日

毎週月曜日～金曜日

（ただし、国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日、年末年始及び当機構が指定する日を除く。加えて、当機構と協議の上、業務の閑散期等には調整が可能とする。）

(3) 勤務時間等

- ① 勤務時間は、原則9時00分～17時45分（実働7時間45分・休憩60分）とする。ただし、当機構と協議の上、8時30分～17時15分又は9時30分～18時15分とすることができる。

なお、当機構と協議の上、業務の閑散期等には調整が可能とする。

- ② 派遣先は派遣労働者に対して月45時間を限度として時間外労働※を命令することができる。

※ 時間外労働とは、1日の実働時間7時間45分を超過した労働のこと。

- ③ 時間外、休日及び深夜の割増賃金については、労働基準法（昭和22年法律第49号）（以下「労働基準法」という。）第37条に定める割増賃金を支払うものとする。また、時間単価に1円未満の端数が生じたときは、これを切り捨てるものとする。
- ④ 派遣労働者が不測の事故、休暇等により連続10日以上勤務できない場合は、派遣先と協議の上、代理の派遣労働者を派遣することとする。ただし、作業の継続性から、機構において代替人員の必要がないと判断した場合はこの限りではない。

(4) 報告

派遣労働者は、毎日、作業終了後、以下の事項を記載した作業報告書を当機構の担当職員に提出すること。その他、受託事業の業務に従事した場合、当該受託事業の所定の書式を用いて、担当職員の指示に従い、作業報告書を提出すること。

記載事項：年月日、作業時間、作業内容、作業者名

5. 派遣労働者数

1人

6. 派遣場所

千葉県木更津市かずさ鎌足2-5-8

独立行政法人製品評価技術基盤機構 バイオテクノロジーセンター バイオものづくり基盤支援課 又は 機構が認めた場所

7. 派遣労働者の変更

派遣労働者に次に掲げる行為があったときは、当機構は派遣元に派遣労働者の交替を要求することができる。

なお、派遣労働者の交替にあたっては、予め派遣元と十分協議することとし、派遣労働者の個人的背景を事由とした交替にならないように留意すること。

- (1) 派遣労働者の勤務状況が適正と認められないとき。
- (2) 派遣労働者の業務の実施が契約条件に適合しないとき。
- (3) 派遣労働者に不品行があったとき。

8. 苦情及び苦情担当責任者

- (1) 当機構は、派遣業務の実施にあたり、派遣労働者から苦情の申し出があった場合、当該苦情の内容を速やかに派遣元に通知するものとする。
- (2) その際、派遣労働者からの苦情の申し出は書面に限ることとし、当該苦情に係る書面には

次に掲げる事項を記載させること。

①苦情の内容

②苦情の発生年月日

③苦情の解決にあたっての要望

- (3) 派遣元は、当機構と緊密な連携をもって苦情その他派遣労働者の就業に関して生ずる問題の適切かつ迅速な処理、解決に努めるものとする。
- (4) 派遣業務における苦情担当責任者は、当機構及び派遣元の双方に置くこととする。

9. その他

- (1) 派遣業務の遂行に際しては、労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律（昭和60年法律第88号）、労働基準法等の規定を遵守するものとする。
- (2) 派遣元は、原則として、労働基準法等関係法規上の使用者としての全責任を負う。ただし、労働時間の管理、安全衛生等の事項については、当機構が使用者としての責任を負う。
- (3) 派遣元は、労働者災害補償保険及び雇用保険上の事業主としての責任を負う。
- (4) 派遣元は、当機構の業務遂行に関して知り得た事項を第三者に漏えいしてはならない。また、派遣労働者に対し、当該義務を遵守させなければならない。
- (5) 派遣元は、労働者派遣契約書に個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）（以下「個人情報保護法」という。）及び当機構の個人情報保護管理規程第18条第5項に基づき秘密保持義務等個人情報の取扱いに関する事項を明記しなければならない。また、派遣労働者には個人情報保護法が適用される。
- (6) 派遣元は、派遣労働者に対し、当機構の情報セキュリティポリシーを遵守させなければならない。
- (7) 派遣労働者は、学会、野外での試料採取等当機構が参加する催しに出張することがある。出張に要した交通費については、当機構で規定した派遣労働者の出張等に対する旅費支給規程第4条の定めにより、原則、当機構が負担するものとする。また、出張期間中の就業時間は、労働者派遣契約に定める就業時間を就業したものとして取り扱う。ただし、労働者派遣契約に定める所定就業時間数を超える場合は、実際の就業時間を適用する。
- (8) 派遣労働者が派遣業務の実施に伴い得られた著作物の著作権があった場合、当該著作権は当機構に帰属するものとする。また、派遣元及び派遣労働者は著作者人格権を行使しないこととする。
- (9) 本仕様書に定めのない事項については、当機構、派遣元双方の協議の上、定めるものとする。
- (10) 天災その他やむを得ない事情により、令和7年度の機構の予算が確保できなかった場合、本調達を中止する場合がある。